

富熊コミュニティセンター 市長と語る会

日 時：令和6年8月6日（火） 午後6時00分～7時00分

場 所：富熊コミュニティセンター

参加者：23名

担当者：市長、地域担当職員 栗井（下水道課） 塩田（秘書課）

1. あいさつ

（所長）

定刻になったので「市長との語る会」を始めさせていただく。最初に会議の進行内容について説明する。まずは市長より「まちづくりは、人づくり」のテーマとして、今年度の重点プロジェクトの説明がある。その後、意見交換会を行う。次に問題提起の質問票に対しての回答をしていただく。まずは、丸尾会長からご挨拶をお願いします。

（会長）

今日は大変お忙しい中、また暑い中ご足労いただいたこと、昨年実施出来ていなかった市長懇談会にご出席いただいたことを感謝申し上げます。本日は有意義な会にしたいと思うので、よろしくお願い申し上げます。

（市長）

富熊地区の皆様には、日頃からご理解とご支援を丸亀市にいただきまして、心より感謝を申し上げます。

「まちづくりは人づくり」という今年度の重点項目の話をさせていただくが、その前に丸亀市全体の流れについて話をさせていただく。丸亀市は6月議会の補正を含め現在約709億円の予算を組んでおり、この額は過去最高額となっている。特徴としては、投資的経費が約240億円となっており、殆どが学校関係の建設費である。建て直しのため、学校関係14校に何らかの予算がついている。これをまず報告しておく。

もう一つの報告は昨年度の夏、日経総合研究所が行うアンケート「住みやすい街ランキング」で、丸亀市は中四国では断トツの1位になった。大変嬉しく思っている。対象としては丸亀市在住、若しくは転勤などで住んだことがある人のアンケートである。全国では19位であった。1位は東京都中央区、2位が武蔵野市など経済的に裕福な地域が上位の中、丸亀市が19番目に入って評価をいただき、ありがたいと思っている。もちろんそれが全てではないので、もっともっと元気なまちづくりに取り組んでいこうと思っている。

2. テーマによる意見交換

（市長）

「まちづくりは人づくり」の話をさせていただく。今年度は「人づくり石垣プロジェクト」を教

育委員会を中心として打ち出した。6年前に丸亀城の石垣が崩れ、今年の8月から石垣を一つずつ丁寧に積み上げていく作業に入る。400年前に積み上げたものと同じように全部積み上げるのが国からの指導であり、これになぞらえて「人づくり石垣プロジェクト」を行うこととした。

コロナの3年4カ月の間に、小中学校の休校が多くなり、その影響で全国的に不登校の子供が約2倍になった。丸亀市も不登校の子供が増えているのが現状であり、学力も低下した。そこで、51人の講師や支援員、補助員、ソーシャルワーカーを丸亀市で雇って、先生方が直接子供と過ごす時間を増やすことが目的である。教育長と去年の夏頃に話をした際には、予算をつけてくれたとしても、なり手がいないのが現実であった。一人一人ピンポイントをお願いをして、現在47~48名の方を雇っている。9月には51名としたい。今から5年間続けて、成果が出るよう取り組んでいく。まずはプロジェクトとして、子どもたちの人づくりがテーマである。教育がうまくいけば、まちづくりがうまくいく、とずっと思っている。

もう一つ、今年度より、自治会に加入している1件当たりの補助金を300円から600円に引き上げた。金額としては小さいが、自治会、コミュニティの運営に少しでも寄与できればと思う。また、自治会長手当も増額した。コミュニティや自治会での次の担い手がいないと、いろいろな処で聞いている。手当を増やすことも人づくりのための環境を整えることだと思ったので紹介しておく。

それと、1月1日に能登の大震災が起きた。七尾市は丸亀市の50年来の親善都市であり、茶谷市長に電話をして、丸亀はできることを何でもすると伝えた。物資よりも人が欲しいと言われたので、1月5日から3人ずつ、7月1日まで、延べ200人を超えた人数を派遣した。土・日、祝日も、何らかの作業または仕事を行い、大変感謝された。その報告を聞いたところ、災害時に、人を助けたりしたのは近所の人の方であり、地域の助け合いが一番大事だと改めて思い知らされたところである。

南海トラフ地震がいつ起こってもおかしくない状況で、その辺りも含めて、この春から協働推進部を創設した。市民の皆さんと地方自治体の丸亀市が、一緒になって元気なまちづくりに取り組むことが、この時代であるからこそ大事であると思う。現在963人の職員がいるが、なかなか全てに行き届かない。時代の流れで担い手がいないという中であるが、市民と行政が協力し合ってまちづくりに取り組まなければいけないと思っており、またそういった方面に力を注ぎながら、元気なまちづくりに取り組んでいく。

もう一つ、協働という面でいうと、今は丸亀の地元の会社が丸亀市の課題を一緒に解決するようになっていっている。まちの賑わいづくりや困りごとなど、企業が入ってやってくれる時代になってきている。こういった部分でも協働がキーポイントだと考えている。

以上が、「まちづくりは人づくり」の説明である。

(所長)

常日頃からお聞きできない事があると思うので、この機会にご質問があれば。

(コミュニティ1)

住みやすさで全国19位の丸亀市と言われたが、何の基準での評価だったのかをお聞かせいただ

きたい。

(市長)

まずは気候が良く災害が少ないことが高得点であった。自然が多い、買い物が便利である、町が静かである。その他、医療や介護施設が充実している。全部で 39 項目あり、主な内容をお伝えした。

3. 事前質問についての意見交換

(所長)

持続可能な地域づくりとして、まちづくり・防災・保健の 3 担当職員を各コミュニティに地域担当職員として配置しており、地域担当者会議を年数回、地域担当連絡会を 2 カ月に 1 回、研修会も開催されているが、この制度の評価と今後の方向性を市長ほどの様に考えているか。

(市長)

丸亀市と地域との橋渡し役が目的である。地域の役に立つような仕事をしながら、担当職員のスキルアップにも繋がると考えている。この制度は今後も取り組んでいきたい。お互い良い形になっていけばありがたいと思っている。

(コミュニティ 2)

この制度自体はとてもいいと思う。会議開催はホームページに掲載されているが、内容はコミュニティに返ってこないため、何が話し合われているかわからない。地域担当職員からもっと発言して欲しいと思う。市からコミュニティの活性化についての意見を、言いにくいこともあるかもしれないが言ってほしい。例えば、地域づくり課がリーダーシップをとって、市からコミュニティへの情報を明示し、担当職員が学んでコミュニティに伝えてもらうなど。コロナの時はいろいろな情報をいただいたのでありがたかった。市の職員がもっと盛り上げていただくことを期待したい。

(市長)

私は市長になる前、川西コミュニティで役員をやっていた。市の職員が地域担当職員として入ってきて、今言われた通りのことを私も思っていた。市長になってから、職員全体が政策集団であると言いつつ続けているが、20 代 30 代の若い職員が出す政策は、今からの時代に合っていると思っている。若手の職員は、自分が合っているかどうか臆せず、コミュニティでもっと発言していいと思う。担当課にしっかり指導していく。ただ、もし発言に間違いがあった場合は、寛大な気持ちで一緒に話し合っただきたい。

(コミュニティ 2)

職員は貴重な時間に来ていただいており、普段の業務プラスなので大変だと思うが、市の窓口という気持ちで来ていただきたい。知らないことは当然あるので、伝えることを決めてキャッチボールができれば有意義なシステムになると思う。地域担当者会で何か意見が出たことはないか。

(地域担当職員)

他の地域担当職員とも話して、情報を得ようとしているが難しいところもある。

(コミュニティ2)

地域づくり課から今月はこの情報が大事であると、おろしてほしい。重点的に各地域に伝えることができる。ホームページや広報紙があると言われるが、みんなが見ているわけではないし、生の声を聞きたい。

(市長)

おっしゃる通りである。市が新しいことを行うという情報は常にある。その情報を流すだけでも違う。地域づくり課に伝える。

(所長)

富熊コミュニティセンターの診断テストを行っているが、結果についてお聞かせいただきたい。外回りの通路や駐車場等の舗装が傷み、石はねやつまずきが起きて怪我をする。また、下水や配管部分の舗装の沈下も見受けられる。外壁の劣化とカビ等により廃墟のようになっている。

また、富熊保育所の修繕や南側校舎の南テラスの雨漏りと北側支援センターの鉄筋のサビやペンキがはがれていると保護者からの要望があった。

(市長)

診断の結果は、今年度末頃になるとの報告を受けている。時間がかかって申し訳ない。なるべく早く報告できるように指示はした。

また、保育所の雨漏りは早急に対応するので、その都度言っていただき、対応していきたい。

サビとペンキについては、すぐ対応できるか建物等の状況によって変わる。対応できるような状態であれば、していきたいと思う。

(所長)

健康診断にて乳がん検査が安易な検査だと受けやすい。今はマンモ検査を受けるが、痛いのと恐ろしいので受けにくいとのことで、エコー検査が受けられるようにしてほしい。

(市長)

この質問を受けて詳しく聞いたところ、かなり痛いという意見も聞いた。専門的に言うと、エコー検査は国が推奨していない。市としては国、県のガイドラインは大事にしていかなければならないと思っており、公費負担でのエコー検査は、現時点では難しい。しかしながら、国や県に要望は伝えていきたい。市ではブレスト・アウェアネスと言われる自己触診を推奨し、普及啓発している。

(所長)

綾歌中学の体育館に防災倉庫が併設される予定であるが、どのような物が保管されるのか。また、栗熊小学校や富熊小学校では場所的に狭いので、どのような利用方法となるか。

(市長)

防災備蓄倉庫がある綾歌中学校体育館は、最新の体育館だと思う。丸亀市民球場に集中して備蓄している水や食料の他、個室になるようなパーテーション、簡易ベッド、簡易トイレを備える予定である。

(所長)

各世帯への防災グッズの購入の補助はあるか。

(市長)

今のところ補助はなく、検討していない状況である。大震災では圧死が多いので、家具転倒防止器具の購入に補助金を出している。また、自宅の耐震化に今まで 100 万の補助金を出していたが、6 月議会で議決いただきプラス 50 万円の 150 万を出す。ただし、プラス 50 万円は非課税の人が対象である。もう一つ、耐震診断は約 13 万円かかるため、13 万 6000 円までの補助金を出す。今は年間約 10 件程度が 100 万円の補助を受けている。50 件、60 件、予算がなくなれば投入するつもりで考えている。高齢の非課税世帯は、耐震化しないことが多いので、プラス 50 万になったのでやりまじょうと勧めている。

(所長)

A | デマンドモビリティが丸亀市の郡家地区で行われているが、現状はどうか。おでかけ便の移動場所拡大や運行への補助はないか。

(市長)

郡家地区で、昨年 10 月からデマンド交通として、2 台を委託運行している。実績は、10 月 85 人、11 月 63 人、12 月 90 人、1 月 88 人、2 月 121 人、3 月 143 人、4 月 238 人、5 月 208 人、6 月 258 人。1 日当たり 8 人、驚くほど少ないと私は思っている。

(会長)

郡家町内を走っているのか。

(市長)

基本的には郡家の中。

(会長)

車はバスか。

(市長)

7 人乗り程の乗用車である。実証実験ではあるが、あまりにも利用者数が少ないと思っている。

(コミュニティ 3)

利用者がどの地域でどのくらいいてどこを回るか、そこがうまく合えば利用につながると思う。

点在していた場合は時間がかかり、それならば家族や知り合いに頼むということではないか。

(市長)

ネットでの申し込みが基本であり、それができないようであれば電話で申し込みができる。シニア世代にアプリ申請の勉強会を何度か行ったが難しかったようである。

(会長)

自宅まで来てくれるのか。

(市長)

停留所のような集合場所を設定している。そこまで来ていただければ相乗り。1回 300 円。

(会長)

集合場所がたくさんあれば良いのではないか。例えば買い物をしている間待ってくれるか。

(市長)

利用者が多くないので今は待ってくれるようだ。現時点で 6 月 258 人が過去最高である。

(会長)

乗った人の反響は大きいのではないか。全国的に成功している例はあるか。

(市長)

ない。まずは 1 年実施してみて、途中で判断する。担当課は頑張っている。

(コミュニティ 3)

停留場所がたくさんあるとのことだが、申し込むときはここからここまでと申し込みするのか。巡回しているわけではなく、空いていたら乗るということか。

(市長)

決まった停留場所で降りるわけではない。行先まで行ってくれる。人数が増えたときはどうするか、実証実験をしている。今は少ないので丁寧にできているのが現状である。

(所長)

高齢者の事故が多くなっているが、衝突軽減ブレーキの取り付けの後付けの丸亀市での補助金はあるか。国も含めてどうなっているか。

(市長)

現在、衝突軽減ブレーキの搭載の義務化が新型車を対象に開始されている。今後はペダルの踏み間違えによる交通事故件数は減少すると予想されている。後付けの補助金は余りにも高額になる為、市は考えていない。

(所長)

時間が来たので終わらせていただく。最後にお礼の言葉を副会長から願います。

(副会長)

本日は大変お忙しい中貴重な時間を割いていただき感謝申し上げます。市長が PTA 会長時代、生徒のためにご尽力いただき、PTA 役員を上手に取りまとめながらやっていたことが心に残っている。今日は直接お話をお聞きできてありがたかった。今日参加された皆さんがいろいろなことに気が付かれたのだろうと思う。市民のためにお忙しい日々を過ごしていると思うが、お身体にご留意いただき、ご活躍をお祈り申し上げます。

(市長)

今後も元気なまちづくりに取り組んでいくので、引き続きのご支援ご協力をお願い申し上げます。